## アメリカ有給ホテル・プログラム

## 米国ホテル・インターンをコーディネイトします。知名度が高いラグジュアリーホテルで働けるのが最大の特徴!



リッツカールトン/フォーシーズンズ/ハイアット/マリオットなど世界トップブランド・ホテルで働く、アメリカ発のラグジュアリー・ホテル・プログラムを 2006 年秋初めて日本に紹介。世界各地のホテリエ 1,500 名を毎年アメリカ国内のホテルに送り出す、10 年以上の歴史あるホテル・プログラムで、4つ星・5つ星の高級ホテル限定が魅力です。

## アメリカ有給ホテル・プログラムが提供する他とは違う2大メリットとは・・・

- ★ キャリア飛躍の成果を引き出すには、最高レベルのホテルで働く事がベストです。そこには最高のサービスが何であるかを知り尽くしたゲストが滞在しており、そのゲストを満足させるホテル・スキルを修得すれば、ホテリエとして完結する道が歩めます。そのため、提携するのは大手ホテル・グループ(リッツカールトン・ハイアット・マリオット・フォーシーズンズなど)や全米各都市の著名独立系ホテルで、全て四つ星・五つ星評価のホテルだけです。これだけのホテルを常時アレンジできるのが、アメリカ有給ホテル・プログラムの他とは違う一つ目の大きなメリットです。
- ★ 二つ目の大きなメリットは、インターンシップでは無理?と思われる高いレベルの収入です。提携するホテルは、アメリカ人スタッフと同等レベルの給料をインターンに支給するのを常としており、平均的なチップと併せて最低保証を US\$1,400 としていながら、実勢は US\$1,800~US\$2,500 の収入があるようです。US\$1,500 程あれば毎月の生活はできますし、フリーミールなどの特典があることも多く、数百ドルの貯金が毎月可能です。また、料飲勤務ではチップも収入が大きいことから、基本給を加えると悠に US\$2,500 を超える収入がありえます。アメリカで経験を積みながら貯金まで出来る・・・ これは大きなメリットです。
  - ◆ ホテル・サーチから始まり、所属部署や給料などの条件交渉・受入れホテル決定・ビザ申請に必要なすべての書類作成・そしてビザ・スポンサー手配までを行い、ホテル業界のクオリティ指標とされるアメリカ高級ラグジュアリー・ホテルの卓越したホテル・スキル修得の機会を提供します。
  - ◆ アメリカー流ホテル勤務経験と正社員に順ずる待遇が得られるこのプログラムで、「将来の自分を肯定的に思い描ける」機会を、ぜひ手に入れて下さい。

## プログラムの特色

- 1. 研修先はアメリカを代表する4つ星・5つ星ホテルに限定。インターン受入契約先ホテル;
  - \* ハイアット・グループ (パークハイアット、グランドハイアット、ハイアットリージェンシー)
  - \* スターウッド・グループ (セントレジス、ウェスティン、シェラトン)
  - \* マリオット・グループ(リッツカールトン、マリオット)
  - \* アコー・グループ (ソフィテル)
  - \* 独立系ラグジュアリー・ホテル
- 2. 宿泊部や料飲部の各セクションをローテイトし、OJTで現場業務に就く。J-1 インターンシップ・ビザ取得にあたり、インターン期間中 の研修内容とスキル到達目標が詳細に記載された、アメリカ国務省指定書式の「トレーニング・プラン」が作成される。ホテル管理 職が研修監督者となり、3ヶ月毎にビザ・スポンサーに研修報告書を提出する、アメリカ国務省管轄の国際交流プログラム。
- 3. アメリカ有カホテルに諸外国のインターンを送り出す実績が10年以上あり、日本を含め世界13ヶ国にインターン募集拠点を持つ グローバルなネットワークで、2008年には1,800名ものインターンを各ホテルに送り込んだ実績を持つ。
- 4. 一つのホテルに 300~700 名のアメリカ人スタッフが勤務する完全な英語環境。最低宿泊料が 500 ドル以上という高級ホテルのため、日本人客を見ることはあまりなく、英語環境で仕事に就く。そのためアメリカ人スタッフが使用する高級ホテルならではの品のある英語が修得できる。
- 5. なぜこれほどの給料をホテルは支給するのか?:経営基盤がしっかりとしたこれら有力ホテルは、アメリカ人スタッフの給料に準ずる支給を常としているので、インターンに支払われる給料としては破格のものとなる。
- 6. なぜホテルは 12ヶ月限定のインターンを受け入れるのか?:アメリカ国務省管轄の「国際文化交流プログラム」の趣旨にこれらホテルは賛同し、CSR の観点からも諸外国のインターン受入に積極的である。また、アメリカ人スタッフの国際化という視点からも毎年多くのインターンを受け入れている。

## 渡米までの流れ:お申込みから渡米までのプロセスと所要期間

- 1. カウンセリング及び書類審査:CV(英文履歴書)を添付ファイルにてメールでお送り下さい。参加資格を審査します。
  - \* 書類審査をパス⇒電話インタビューにて英語力を診断⇒選考合格者は正式に申込み手続きを進めていきます。
  - \* 申込書の提出/プログラム費用のお支払い
- 2. アメリカ送付書類作成と必要書類準備 2週間
  - \* 英文履歴書/カバーレター、そしてホテルへの紹介に役立つ Intern Profile (アンケート) の英文作成と添削。
  - \* アメリカ本部に提出する Application 等応募書類の準備を願います。

### 3. 研修先決定まで 1~4ヶ月

- \* 応募書類一式がアメリカに届きますと、参加者の希望を考慮しながらホテルと受入れ交渉を始めます。
- \* 至急求人案件への応募の場合、2週間程でホテルが決まることもありえますが、通常はポジション打診から入りますので、ホ テル決定までに平均1~4ヶ月の期間が必要です。サーチにかなりの時間がかかるため、都市の指定は受付けておりません。

## 4. 研修先決定からアメリカ大使館・領事館ビザ面接まで 2~3ヶ月

- \* DS-2019 発行手数料/海外旅行保険料/ビザ諸費用のお支払い。
- \* ホテル決定⇒Training Plan を作成⇒完成した Training Plan にサインするとホテルとの研修契約成立となります。
- \* Training Plan をベースにアメリカ国務省認定団体が DS2019(ビザスポンサー書)を発行します。

## 5. ビザ面接から発給まで 1週間

- \* ビザ申請書類作成を代行致します。また、面接官が重要視する事柄をしっかりと英語で伝える面接練習も行ないます。
- \* 無事面接が終了すると、面接官よりその場で「ビザ発給仮決定書」が手渡され、通常1週間以内にビザが発給されます。
- 渡航手配: 航空券/海外旅行傷害保険(米国本部指定)/住居手配(提携ハウジング会社が手配します)

#### よくある質問一覧

- Q. どのようなホテルを紹介してくれるのでしょうか?
- A. 契約を結んでいるリッツカールトン、フォーシーズンズ、ハイアット、マリオット、ソフィテル、オムニなどのホテル・グループや独立系ホーテルを紹介致します。すべて4つ星・5つ星ホテル限定で、ロケーションはアメリカの主要都市や高級リゾート地です。
- Q.日本人を採用するということは、日本人ゲスト担当ということですか?
- A. いいえ。特に日本人ゲスト担当という意味合いはありません。ホテルはスタッフ間にインターナショナルな雰囲気を作り出したいと考えており、日本以外ではヨーロッパからのインターンも採用しています。スタッフ 500 名のなかで、日本人は1人だけという環境も珍しくありません。「ホテル勤務が半年経ったけど、日本人ゲストをまだ一人も見ていない」とコメントを送ってくるインターンがいる位です。
- Q. 英語のレベルはどのくらい必要ですか?
- A. 仕事で英語を使いますので、日常会話~ビジネス会話のコミュニケーション力が必要になります。
  ただ、英語のレベルに不安がある場合は、最初 Bell, Housekeeping 等に配属され、英語に慣れてきたらフロントデスクに移動するなどのアレンジをします。ホテルとの電話面接の結果を踏まえ、アメリカ本部担当者がホテルと配属先について交渉を致します。
  また、語学研修をご希望の方には手続き料無料で、語学学校を手配します。
- Q. フロントデスクを希望していますが、ベルの経験しかありません。参加できますか?
- A. はい、参加できます。J-1 インターンシップでは様々なポジションをローテイトする方法もあります。例えばベル経験者ならベルから入り、ホテルの仕事と英語に慣れてきたらフロントへ配属するなどが可能です。もちろん希望ポジションの経験があればそれに越したことはありませんが、参加資格を満たしているなら経験がなくてもホテルがチャレンジさせてくれます。
- Q. 希望するホテルや都市を指定できますか?
- A. エリアのリクエストは可能ですが、事前の保証はできません。料理人以外のポジションはリゾート地のホテルが多く、ニューヨークやロサンゼルス等の都市部のホテルはインターン募集が多くはないので、基本的にエリアはオープンにお考え下さい。
- Q. 住居はどのようにして探すのですか?
- A. ホテルによって対応が異なります。リゾート地のホテルでは従業員宿舎に入居できるケースがありますが、都市部のホテルでは基本的にアパート滞在となります。
- Q. 収入はどの位ありますか?
- A. 最低\$1,400 をギャランティしますが、実勢は  $US\$1,600 \sim US\$2,000$  の収入があります。また、料飲部配属の場合はチップ収入多く、月に US\$2,200 を超える収入がある人も多々います。さらにフリーミールなどの特典が付けば、益々生活しやすくなります。

## J-1ホテル・インターン(在学生・新卒者対象)

在学生や新卒者が参加できるインターンシップ・プログラムで、将来ホテル就職を目指す方には最適で、在学中にラグジュアリー・ホテルとして評価の高いアメリカのホテルで勤務経験が積めます。ホテル大好きには格好の国際的なホテリエ育成プログラムです!

#### 参加資格

- 事門学校ホテル科もしくは短大・大学・大学院ホテルコースや観光学部の在学生(アメリカの学校は除く)。
- ② 上記課程で卒業後12ヶ月以内の新卒者。
- ③ ホテル・レストラン経験者は有利です。
- ④ 接客レベルの英会話ができる方。

## J-1ホテル・トレーニー(社会人対象)

今あるホテル勤務経験を国際化の波に対応できるレベルに上げる!ラグジュアリー・ホテルとして評価の高いアメリカ高級ホテルでグローバル・スタンダードを身に付け、ホテル業界でさらなる活躍ができる人材を目指します!

#### 参加資格

- ① 20~35歳の男女(36歳以上は要相談)。
- ② 短大・大学にて Hotel/Hospitality/Tourism の専攻または Business/Management 系の専攻で Hospitality/Tourism 系の科目を履修した方+ホテル・レストランでの職歴1年以上。
- ③ 上記以外の専攻の方+ホテル・レストランでの職歴5年以上(卒業後)。
- ④ 接客レベルの英会話ができる方。
- ※現職・前職がホスピタリティ業界以外の方は、ホテル・レストランでの最後の職歴より3年以内に応募すること。

## J-1 ホテル料理人インターン(コック・パティシエ・パン職人対象)

## アメリカ4つ星・5つ星ホテルの調理部門で、あなたの料理人としての能力と経験を発揮しよう!

アメリカの有名ホテルでは著名シェフの料理を売り物に、レストラン集客に力を入れています。メニューにはシェフの独創的かつ斬新な料理が溢れ、また人気を博しているアメリカンキュイジーンの真髄に触れる事も出来ます。著名シェフの傍で最高級の料理法を学び、世界に通ずる調理人としての腕をあげる絶好の機会が、このアメリカ・ホテル料理人インターンシップです。世界各国の味に触れる機会が

多く、優れた技術と繊細さを持ち、向上心の強い日本人料理人やパティシエはどのホテルからも引っ張りだこです。 ① 22~35歳の男女。 参加資格 ② 専門学校で2年間の料理コースを卒業した方は、レストラン業界での調理経験1年以上(卒業後の経歴)。 ③ 上記以外の方はレストラン業界での調理経験5年以上(卒業後の経歴)。 ④ 問題なくコミュニケーションが取れるレベルの英語力がある方(目安:TOEIC600以上)。 研修先 全米主要都市やリゾート地の四つ星・五つ星ホテルやダイニング・レストラン \*フロント \*料飲部門 \*スパ \*シェフ \*コック \*パティシエ \*パン職人 \*営業・マーケティング 配属先 12ヶ月間 ※一部マネージメント・ポジションで 18ヶ月間の受入れ可能) 研修期間 開始時期 インターン開始希望時期の12ヶ月前から申込み受付。 収入:給料+チップ収入月 US\$1,600~ 勤務中の食事 \*ホテルによっては住居の 待遇 プログラム費用 プログラム費用 DS-2019 費用 & US 健康保険料 ビザ代行料 合計 ¥350,000 ¥350,000 12ヶ月間:米本土 ¥80,000 ¥780,000 12ヶ月間:グアム・サイパン ¥250,000 ¥680,000 ¥350,000 ¥80,000 書類審査と英語力診断:無料 ビザ取得費用¥80.000 プログラム費用に含まれるもの ビザ代行料:申請書作成/支払い代行/面接予約 \* 履歴書等各種応募書類作成 SEVIS Fee 研修先ホテル・リサーチ開始 ビザ申請料 ホテルとの面接設定 費用に含まれないもの トレーニング・プラン作成 航空券代:格安航空券を手配します。 \* ホテルとの英語面接準備 住居諸費用:手配料/申請料/保証金 \* 渡航前オリエンテーション プログラム費用見積もり(米本土のホテル) \* 渡航手配 プログラム費用:¥350,000 DS-2019 発行手数料に含まれるもの DS2019費用&US健康保険料:¥350,000 \* ビザ・スポンサー承諾書類作成 ビザ申請料+ビザ代行手数料:¥80,000 \* 期間中のビザ・スポンサー料 航空券代(片道):¥100,000 \* 期間中の US 健康保険料 合計: ¥880, 000 ホテル・マネージメント研修&OPT 対象有給ホテル就労プログラム アメリカのコミュニティ・カレッジや大学には、質の高いホテル・マネージメント教育のプログラムを提供している学校が多いです。 ホテルでの職歴がない方、本場アメリカでホテル・マネージメントを学びたい方は、コミュニティ・カレッジでホテル・マネージメントのサー ティフィケートまたは準学士を取得し、卒業後に OPT(Optional Practical Training) を活用し、ホテルで就労するプラン(最長 12ヶ月 間)をお勧めします。Certificate や Degree をアメリカで取得した外国人には、1 年間の労働許可がアメリカ政府から与えられますが、 この機会は世界ビジネスを牽引するアメリカ企業で働ける絶好のものです。 ただ、勤務先を探すのは自己責任とされ、「自分が気に入る会社や仕事が見つからない/どのように会社を探せばいいか分からない /労働許可期間が始まってしまって焦っている/だけど折角の機会だから会社選びに妥協はしたくない」という方たちに、申込期間限 定の「OPT 支援特別プログラム」をご案内します。 アメリカで Hotel Management や Hospitality Management & Tourism 等で卒業し、労働許可書(EAD)をお持ちの方に、アメリカ

アメリカで Hotel Management や Hospitality Management & Tourism 等で卒業し、労働許可書(EAD)をお持ちの方に、アメリカを代表する4つ星・5つ星ホテルで働けるチャンスを提供します。大手高級ホテル・チェーンや独立系ラグジュアリー・ホテルと外国人スタッフ受入の優先的契約をしていますので、ホテル紹介はぜひお任せ下さい。今までに全米 800 以上のホテルに外国人スタッフを送り込んだ実績があり、蓄積した膨大なホテルデータを活用して、勤務経験が高く評価される高級ラグジュアリー・ホテルを紹介しています。

研修プラン	高卒:(英語研修)⇒ホテル・マネージメント準学士(2 年間)⇒OPT ホテル・インターン 12 ヶ月間
	短大卒・大卒:(英語研修)⇒ホテル・マネージメント・サーティフィケート(1 年間)⇒OPT ホテル・インターン 12 ヶ月間
	$ ightarrow$ 準学士 $1$ 年目 $\Rightarrow$ OPT ホテル・インターン $12$ $\sigma$ 月間 $\Rightarrow$ 準学士 $2$ 年目のプランも可能です。
	▶ OPT は2セメスター(3クォーター)を連続すると取得できるため、秋学期(9月~12月)+春学期(1月~5月)の
	実質 9ヶ月間の研修修了後に OPT でのホテル・インターンに参加することができます。
参加条件	① アメリカで Hotel Management/Hospitality Management & Tourism で卒業した方
	② 就労許可書(I-797)と EAD カードをお持ちの方

п	0 33000 1 1 1 1 1		
	マネージメント研修手続き料	OPT ホテル就労先手配料(米本土)	OPT ホテル就労先手配料(グアム・サイパン)
	¥80, 000	¥280, 000	¥180, 000

## 費用に含まれるもの

- \* 語学研修手続き(条件付入学)/カレッジ入学手続き
- \* 履歴書等各種応募書類作成
- \* 滞在先手配サポート
- \* 雇用証明書

## 費用に含まれないもの

- \* 授業料・教材費・その他諸費用及び研修中の生活費
- \* F-1 ビザ取得費用/OPT 就労許可申請料
- \* 就労地への移動交通費
- \* 海外旅行保険料

お薦めカレッジ	都市名	コース	学費(別途教材費)	滞在
Highline Community College	シアトル WA	C A	\$8,695.	ホームステイ/学生寮
Orange Coast College	コスタメサ CA	C A	\$7,330.	ホームステイ/アパート
Cypress College	サイプレス CA	C A	\$8,280.	ホームステイ/アパート
Community College of Southern Nevada	ラスベガス NV	C A	\$8,740.	ホームステイ/アパート
G. G: 6: / 1 左眼 中縣 G . 耳眼) A . A	· + D /0/=	BB 5565 16	ロ田) シノスの小半点	7 / の 土 レーンドナ (切 人 ) 十 十

C: Certificate (1 年間・実質 9 ヶ月間) A: Associate Degree (2 年間・実質 18 ヶ月間) ※その他数多くのカレッシを紹介します。

## プログラムの 特徴

- 日本人観光客の多いサイパンやグアムのホテルでは日本人のインターン生を積極的に採用しています!
- アメリカ本土のホテルと比べ、英語カ条件が緩やかですが、職場は英語環境なので、実践で英語を習得!
- 基本的に全てのポジションをローテーションで体験できるので、ホテル業務を効率的に習得できます!
- 基本的に部屋・食事・手当が支給されるので、参加費用のみで充分生活できます!

参加条件とビザ	年齢	開始時期	学歴と職歴
J-1 Intern(学生インターン)	18 歳以上の学生	随時	ホスピタリティ系専攻+ホスピタリティ系のアルバイト
J-1 Intern(新卒インターン)	20 歳以上の新卒	卒業後1年以内	ホスピタリティ系専攻+ホスピタリティ系のアルバイト
J-1 Trainee(社会人研修生)	20~37 歳の社会人	随時	* ホスピタリティ系専攻+ホスピタリティ系の職歴1年以上
			*他の専攻+ホスピタリティ系の職歴5年以上
OPT	20 歳以上	OPT 取得時期	アメリカの大学・カレッジでホスピタリティ系専攻
CW-1(サイパン限定短期就労ビザ)	20~40 歳の社会人	年に数回	専攻不問+ホスピタリティ系の職歴1年以上

- 接客レベルの英語力(コミュニケーション重視):目安 TOEIC700 以上
- 専門学校卒及び他の専攻でもホスピタリティ/ツーリズム/マネージメント系科目を履修している方はご相談ください。

参加期間	基本的には 12ヶ月間 *CW-1ビー	ザは更新可能。		
研修先一例	HILTON Guam Resort & Spa タ-			
	Pacific Islands Club Saipan & G	uam 大小様々なプール	等の施設が充実	、マリンスポーツを楽しみたい方向し
	LOTTE Hotel Guam 海辺の一等地に立地し、タモン地区の美しい景観を望む素晴らしい5つ星ホテルです。			
	Kensington Hotel サイパン随一のラグジュアリーホテル。			
	FIESTA Resort & Spa Saipan ショー、スパ、アクティビティが充実したサイパン屈指の高級リゾートホテル。			
	HYATT Regency Guam ハイアット・グループがグアムで展開する高級リゾート・ホテル。			
ポジション	<b>ション</b> *フロント * ゲスト・サービス * レストラン * アクティビティ部門 * ハウスキーピング * スポーツ施設 等 ※ホテル内のいろんなポジションをローテーションで経験することができます。			
就労条件	週 40 時間勤務/シフト制(深夜・早朝		ローテーション	
待遇	<b>済遇</b> (本)       (本) <t< th=""></t<>			
▶ 航空券:ホテルによっては片道または往復航空券を支給します。				
プログラム費用	DS-2019 費用 & US 健康保険料	J-1ビザ取得費用	合計	
¥250, 000	¥350, 000	¥80, 000	¥680, 000	
CW-1	サイパン・ホテル手配料	¥380, 000(ビサ	費用を含む)	
OPT インターンシップ手配料		¥180, (	000	
費用に含まれるも	<b>もの</b>			
② 李栋强力(尼亚李佐女话广节李栋/L-1				

- ① 書類選考/履歴書等各種応募書類作成
- ② ホテルのリサーチ及び受入れ交渉/ホテルとの面接の設定
- ③ トレーニング・プランの作成
- ④ DS-2019 費用:ビザ·スポンサー承諾書類作成/期間中のビザ·スポンサー料
- ⑤ US健康保険料(12ヶ月間)
- ⑥ 渡航前サポート/出発前オリエンテーション
- ⑦ ビザ取得費用:代行料(申請書作成/ビザ諸費用支払い/面接予約)・ビザ申請料・SEVIS

## 費用に含まれないもの

- ① CW-1 サイパン・ホテル:海外旅行保険料 \* 更新費用(1 年間の延長) ¥150,000
- ② OPT インターンシップ: 海外旅行保険料及び就労許可申請料

## 手続きの流れ (J-1)

- 書類選考:①日本語履歴書 ②日本語職務経歴書 ③英文履歴書 ④証明写真 ⑤パスポートのコピー
- 書類選考合格⇒申込書の提出及びプログラム費用のお支払い
- 3. ホテルとのスカイプ面接⇒合格⇒インターン契約書にサイン
- DS-2019 費用・健康保険料・ビザ費用のお支払い⇒トレーニング・プランの作成⇒DS-2019 発行手続き
- 5. J-1 ビザ面接⇒ビザ発給・パスポート受理⇒航空券の手配⇒出発前オリエンテーション
- 出発⇒アメリカ入国⇒グアム・サイパン空港にて出迎え⇒宿舎にチェックイン
- ビザ・スポンサーへの到着報告⇒ホテルでのオリエンテ・





マリンスポーツを楽しみたい方向け。

## インターン先 アメリカ ニューヨーク 独立系四つ星ホテル

コメント セントラルパークに面するホテルで要田章さんはフロント業務を担当。

│抜群のセンスでゲストを魅了するホテルとして NY で大評判。

憧れ続けたニューヨークでホテル・インターンシップ開始!このプログラムはかなり素晴らしいですね!

もちろん英語についていくのに精いっぱいですが、こんなにいいホテルで働けるなんて本当に夢みたいです。オペレーション自体はそんなに複雑でないので、英語に慣れればだいぶましになると思います。

さて、私がホテル・インターンシップの事を知ってからはや一年。しかし、当時の私はNYの知人にお願いして、NYにある某ラグジュアリー・ホテルの人事を紹介してもらい、自分で仕事を見つけるべく頑張っていました。しかし、世の中そんなに甘くはありません。マスターを持っているわけでもなく、特別な職務履歴があるわけでもない日本人を、ましてや英語も日常会話なら問題ないとはいえ、ネイティブレベルでもない日本人がいきなり人事に電話をして採用されるわけがありません。

今思えば恥ずかしい話なのですが、当時の私は本気も本気でした。それでも、申し込みをしているわけでもない私に対してホテルインターンズは親身になって相談に乗ってくれ、色んなアドバイスをくれました。

以前からNYに住みたいと考えていた私は、もう居ても立ってもいられず、勤務先ホテルの社長に話をして、アメリカで受入れ先ホテルが決まり次第退社する旨を伝えました。無茶苦茶な話ですが・・・(笑)

自分でホテル探しなどをして、時間だけが経過していきました。そして本格的にホテルインターンズに依頼をしたのが秋頃なのですが、ニューヨークだけを希望地としたため、厳しい状況でした。それでも、すぐに決まるだろうと考えていた私は、周囲に年内には退社しますなんて言っていました(笑)年が明けてもニューヨークのホテルに空きポジションが出て来なかったので、私は一つの決断をする事にしました。この際、ホテルが決まろうと決まらなかろうとNYに行ってしまおうと決めたのです。それから全ての歯車が回り始めました。

私がホテルの社長に三月一杯で退社する旨を伝えたのは一月後半。どのみち四月にはNYに行ってしまおうと思っていました。しかし、私の硬い決意を聞いたホテルインターンズから、「なんとか二月一杯にホテルを探せば四月には出発できる」と知らされました。

そして、二月後半に今週面接が入るかもしれないという連絡を受けました。面接の練習はしたものの、やはり不安と緊張はありました。しかも、ホテルのウェブサイトを見ると、とてもおしゃれでかっこいいホテル。本当にこんなホテルで働けるのかと余計不安になりました。しかし、逆にここで働きたい意欲に変わり、とても気合いが入りました。

いざ面接となると、意外と落ち着く事が出来、先方のフロントマネージャーにもこちらの意欲を伝える事が出来ました。

そして、忘れもしない三月一日の朝、ホテルインターンズから電話が入りオファーがあった事を知らされました。なんとかビザ面接も無事に終え、去る四月二十日、NYに辿り着く事が出来ました。今回の事を考えてみると、やはり夢は叶います!

今回、NY のホテルになかなか空きが出なかったのですが、他の都市からのオファーはいくつかありました。

「このようなホテルに空きが出てますが」、と何度もホテルインターンズから情報を貰ったのですが、私は首を縦には振りませんでした。正直他の都市のホテルに行こうかと迷った時期もありましたが、ここで妥協をしたら NY にはずっと行けないと思ったのです。そこで我慢が出来たから、今 NY にいる事が出来るのだと思います!

Trainee だと思って甘くみていた私は、勤務三日目からフロントに立って仕事をしています・・・。最初の数週間は裏でトレーニングかと思いきや、三日目ぐらいからフロントです。チェックイン、チェックアウトはもちろんの事、電話まで取っています。

習うより慣れろとはまさにこのことですね。波瀾万丈はまだまだ続きそうです!

3ヶ月経過。いきなりフロントで英語を実践!成長してます!NY生活も早3ヶ月が経とうとしています。

あっという間の3ヶ月でしたが、本当に大変な事ばかりでした。留学経験があるとはいえ、英語とはかけ離れた生活を日本で送り、また100%英語という職場環境は初めての経験です。英語もままならないまま、勤務開始3日目からフロントに立たされました。

チェックイン、チェックアウトはもちろんのこと、電話の対応も仕事の一部です。面と向かって会話をする分には、口の動きや手の動きなどを見ることが 出来るのでなんとかなります。しかし、電話の対応となると、顔が見えない上に聞き取りずらいこともよくあり本当に苦労しました。初めの頃は電話が鳴 るのがとても怖かったです。

しかし、慣れとはすごいもので、今では電話がなると真っ先に私が取っています(笑)こちらが理解していないと思えば、先方も言い方を変えるなり、ゆっくり話すなりしてくれるものです。たまに、怒って他の人間を出せと言われることもあるのですが・・・

アメリカ人はミスに対してはとても寛容です。たとえ英語が流暢でなくても、トライしている姿勢が伝わればそれなりに認めてくれます。その代り、フロントの一員として働いている以上、その分の仕事をする事が要求されます。英語ができないからと怯えている訳にはいきません。 与えられた仕事を一つ一つこなす事によって、同じ仲間として認めてくれるようです。

私の経験として、こんな事がありました。ある日、電話を取ったところ相手が早口で全く理解できませんでした。私は電話を保留にして、近くにいたアシスタントマネージャに助けを求めました。しかし彼が言ったことは"Try to understand"だったのです。

私は茫然としましたが、すぐに電話に出て何度も聞き返してやっと先方の言っていることがわかりました。 それからは、どれだけ分からなくても何度も聞き返し、それでも分からない時だけ、電話を代わってもらうようにしています。すぐに諦めるのではなく、分かろうとする姿勢が大事なのだと思います。

私のホテルにはよくセレブが宿泊しています。さすがNYのホテルだなと思わずにはいられません。基本的にはアーティスト系のセレブが多いのですが、時には俳優や女優も宿泊しています。ホテル側は相手がどんなにセレブであろうとも、普段と変わらない対応が求められます。私のホテルでは、サインはもちろん握手を求めることも許されていません。

常にプロフェッショナルとしての対応が求められているのです。他の同僚達はどんなセレブが宿泊しようとも、全く気にする気配もなくいつも通りに接客しています。日本人の私には信じられないのですが(笑)

先日、アメリカの独立記念日がありました。独立記念日が金曜日だったため3連休となり、各地からいろんな観光客が来て、街は混雑するのだろうなと思っていたのですが、全くの逆でした。ニューヨーカーはこの時期旅行に出て、また他のアメリカ人は実家などに帰り家族と共に過ごすようです。

いつもは混雑しているホテルのバーも閑散としており、とてもびっくりしました。また、今年の独立記念日は天気も悪かった為、イーストリバーの花火は中止になったようです。全米各地でも天候や山火事などの影響もあり中止するところが多かったようで、もっと盛大なものかと思っていた私は拍子抜けしてしまいました。

こんな感じで私のニューヨーク生活は進んでいます。いい面や悪い面それぞれありますが、自身のホテルキャリアにはとてもいい勉強になっています。

# インターン先ミネソタ州仏系大手ホテル・フラッグシップブランドコメントベルでホテルデビュー、その後フロントで経験を積んだ奥山孝浩さん。今回はアメリカホテルデビューです。ミネソタにある仏系大手ホテルのフラッグシップでフロント業務に就きます。

アメリカに来て3週間が経ちました。私のインターン先の紹介をします。

ホテルのある街は穏やかで自然が多く、ダウンタウンから少し離れていますが、空港や大きなショッピングモールが近くにあります。ダウンタウンは高層ビルが建ち並び、多くの人々が行き交うところ。一度、職場の人に連れて行っていただきました。全体に湖が多く、木や芝生があふれていて、自然に囲まれています。

インターン先のホテルは四つ星ランクで、282 室の客室と2つのレストランとバーがあり、最近改装され、客室は新しくなったようです。ホテルのパンがおいしいと評判です。平日はビジネス中心、週末は様々なゲストが来る日本の都市型ホテルと同じようです。

アメリカ初日、空港に到着して、ホテルの方2人と無事会うことができました。フライトが予定通りだったので安心しました。

出発前は到着が遅れたらどうしようかと心配だったのですが・・・空港を出ると、そこに待っていたのはキャデラックのリムジンではありませんか!!あれれ、こんな車で迎えられても・・・と思いつつ、乗り込みました。2度の乗り継ぎと長い長いフライトで頭がぼーっとする中、初めてのアメリカ(私にとっては初海外)の景色を眺めていました。15 分ほどでホテル到着。荷物を運んでもらうのを申し訳なく感じながら、客室へと向かいました。これから一緒に食事いかがですか?と誘われ、少し混乱している頭で、レストランで食事をすることにしました。荷物を置き、いざレストランへ。ホテルの方3人とホテルにあるシーフードレストランで食事タイム。うーん、英語しか聞こえてこない、メニューももちろん英語、あとフランス語。。。(ひぇ~!)さらに混乱する。完全に雰囲気に飲まれてしまいました。ほとんど話すことができず、自己嫌悪、やれやれ。。。初日はこんな感じで終わりました。

住居が決まるまでホテルに仮住まいしていましたが、運よく近くの家に間借りできるところを見つけたので2週間ほどで移動できました。ホームステイのような感じかな。やっと、生活が動き出したところです。

ホテルの仕事は、最初はやはり戸惑いました。言葉の問題はもちろん、自分がやるべきことが何なのか、手探り状態でしたが、今は何となく自分が働いてるフロントの役割が掴めてきました。フロント、コンシェルジュ、ベル、ハウスキーピング、予約、セールス、人事など各部門の存在が分かってきました。英語がまだうまく聞き取れないので、分からなければすぐに、助けを求めるようにしています。また、周りのスタッフが助けてくれます。

遠慮しない、知りたいことは聞いてみる、英語で言おうとすることを、話すための時間をとること、質問にすぐに答えられなくても時間をとって考える、分からなければ恥ずかしがらず、I don't know.ということ。私の場合生真面目にいろいろ考えてしまうため、様々なことが気になってしまいます。今自分がしていることは正しいのだろうか、もっと他にすべきことがあるのではないか、他のスタッフに何か迷惑をかけてはいないだろうか、など。

でも、焦らずに、考え込まないようにしています。ここはアメリカでも、同じ人間。機嫌が悪い人もいれば楽しそうにいつも仕事をしている人もいます。自分がすべきこと、したいことを伝えるようにしています。そうすればきっと、1年後に達成感と自信に満ちていることと思います。

ミネソタ生活も2ヶ月が経ちました。

仕事や周りの環境に慣れるのに時間がかかり、最近まで毎日のようにへこんでました(笑)。英語が分からず黙ってしまう、信号がよく分からず交差点をすぐに渡れない、なにをするにも誰かの助けがないと何もできない自分に対する情けなさで押しつぶされそうになる、などこの先いったいどうなるのだろうかと不安でいっぱいでした。でも今は生活にも慣れ始め、一人で買い物に行ったり、少しずつ溶け込んでいるように感じます。まだまだこれから、と気持ちを切り替えられるようになりました。

私の働くフロントでは3交代制で早番、遅番、夜勤と分かれています。今のところ、遅番が多く、時々早番勤務があります。通勤は自転車で5分程なのでとても楽です。ただ、夏の間だけ。冬はとても寒いと聞いているのでちょっと心配になりますが、短い夏を楽しんでいます。

仕事はとても和やかな雰囲気です。スタッフ同士、またゲストも交えてよくおしゃべりをして楽しい時間を過ごしています。フロントの隣にはコンシェルジュカウンターがあり、フロントが忙しい時、コンシェルジュでもチェックインをしています。空港が近いせいか、ゲストの到着に波があり、チェックインが集中することがあります。ロビーには、ソファーがたくさんあり、座っているゲストにレストランのスタッフがよく声をかけ、飲み物や食事を提供しています。こういった感じは日本では見たことのない光景ですね。

毎日早朝には、レストランの入り口前にコンプリメンタリーのコーヒーとパンが置かれていて、見ていると食べたくなります(笑)。休みの日に、先日行われた全米女子オープンを見に行ってきました。ゴルフはテレビで見るくらいだったのですが、今年は私が住む同じ市内で行われることを知り、前日にチケットを取りました。練習ラウンドでしたが、目の前で日本人プレイヤーを見ることができました。こんな大きな大会が、しかもすぐ近くで行われるなんてすごい偶然でしょう!! 運よく休みも重なりなんてラッキーなんだろうととても興奮しました。 はじめてのゴルフコース、しかもアメリカで、ほんと信じられないですね。とても、貴重な体験ができました。

## インターン先ポストン独立系四つ星ラグジュアリーホテル

コメント 予約業務で働いた志賀絵梨子さんのキャリア目標は、コンシェルジュのプロになる事。 ボストンでは宿泊部配属、そして最高のコンシェルジュを目指します。

いよいよ憧れのボストンでインターン開始!憧れのボストン生活が始まりました!

3月29日にボストン入りする予定が、経由地のワシントンDCで飛行機の故障により1日足止めをくらい、アメリカ初日は一人少し不安な夜を過ごしました。ただ航空会社が手配してくれたホテルはなかなかいいホテルで、食事も無料だったのでラッキーでした。

そして翌朝ボストンに無事到着。その日ボストンは快晴でとても寒いと想像していたのがそれほど日本と変わらなかったので少し拍子抜けしました。ローガン国際空港から宿泊先のホテルがある"バックベイ"と呼ばれるエリアまで地下鉄で移動しました。ボストンでは地下鉄はT(ティー)と呼ばれていて、路線は全部で5つあり、これで街中どこへでも移動できるのでとても便利です。Tを降りてまず目に飛び込んできたのはボストンの素晴らしい街並みです。どの建物もとても趣きがあって、どこを見ても絵になるのです。その中で私が目を奪われたのはトリニティ教会とその隣に建つジョン・ハンコック・タワーです。トリニティ教会は19世紀後半に建てられたその外観から見ても分かる通りとても美しい教会です。そのすぐ隣に62階建て総ガラス張りの超近代的なジョン・ハンコック・タワーが建っているのです。これが不思議と調和がとれていて、私はこの過去と現在が入り混じったボストンの街並みに一気に魅了されてしまいました。

インターンシップが始まるまでの3日間はボストン見物とこれから住む部屋探しであっと言う間に過ぎてしまいました。インターンシップ開始の4月2日、この日は午後からの出勤だったので、午前中にソーシャルセキュリティと銀行口座開設の手続きに行きました。ソーシャルセキュリティオフィスまではTで5駅ほどで、場所も分かりやすく手続きも5分程であっと言う間に終わってしまいました。

銀行口座の開設も銀行のスタッフが親切に色々と説明してくれたおかげでスムーズに終わりました。そして午後、いよいよインタ

ーンシップ開始です。でも実は、ボストンに着いてから毎日のようにホテルに顔を出していたのであまり緊張はしませんでした。ボストンに着いた日、ホテルに挨拶に行った際にスタッフ全員がとても暖かく迎えてくれて、フロントオフィスマネージャーに、自分のパソコンが宿泊先のホテルで使えないこと

を話すと「インターン開始前でも、いつでも好きな時にパソコンを使いに来ていいよ」と言ってくださったのです。

インターンシップ初日も「Hello Eriko! How are you?」とみんなが笑顔で声をかけてくれて、アメリカに着いてから少し孤独を感じていた気持ちが和らぎました。みんなの暖かさがとても嬉しかったです。私を指導してくれているフロントオフィスマネージャーはとても優しい方で、ひとつひとつとても分かりやすく説明してくれるので、とても助かっています。初日はオリエンテーションで、ボストンとホテルの歴史、ホテルのポリシーなどについての説明があり、後半はホテル内の見学をしました。

そして 2 日目からいよいよフロントオフィスでのトレーニングが始まりました。スモールラグジュアリーホテルなので、フロントオフィスのスタッフは全員、フロント・コンシェルジュ・宿泊予約業務をオールマイティにこなします。なので覚えることがたくさんあって大変!でも、とてもやりがいがあります。フロントチェックインの際などで、どんな質問や要望をゲストから投げかけられても臆することなくその場でスムーズに応対しているスタッフの姿には感心してしまいます。私も早くあんな風になりたい!

また、観光で来ているゲストが多いので、休みの日はボストンの街を散策してたくさん情報収集をしようと思います。今ホテルには松坂投手を取材に来ている日本人雑誌記者が宿泊していて、日本語が唯一話せる私を何かと頼りにしてくださっているので、私もその期待に応えるべく慣れないながらも頑張っています。ホテルもこれから日本人ゲストをたくさん受け入れたいと考えていて、すでに日本人向けのウェルカムレターや案内書が用意され、ホテルの外には日本の国旗が掲げられています。アメリカと日本の架け橋となるべく頑張ります!

今は無事住まいも決まり引越しをして、少しづつ生活が落ち着いてきたところです。昨晩は「松坂投手のボストン初登場、そしてイチローとの対戦」というので、ルームメイトとテレビでレッドソックス vs マリナーズの試合観戦をしました。(残念ながらレッドソックスは負けてしまいましたが...)早く球場に試合を観にいきたくなってしまいました。

ボストンは 4 月に入ってまた冬に逆戻りしてしまったようで寒い日々が続いていますが、これからとてもいい季節になっていくので楽しみです。これから 思う存分ボストンを楽しみたいと思います!

3分の2が経過!充実のアメリカ生活を振り返る。

待ちに待った季節がとうとうやってきました!春から初夏にかけてのこの季節が、ボストンで私が一番大好きな季節です。4月下旬に入りようやくボストンも春らしい気候になり、それとともに街中の花々が一斉に咲き始め、モノクロの冬の世界からパス

テルカラーの世界に一気に変わりました。ホテル前のコモンウェルスアベニュー沿いに立ち並ぶマグノリアの木々は一斉にピンクや白の花を咲かせ、 日本の桜並木のようでとてもきれいでした。ボストンの古く趣きのある街並みにマグノリアの美しい花、私の好きなボストンの風景の一つです。

今はそれが緑に変わり、爽やかな初夏の訪れを感じさせてくれます。春の訪れとともに、アメリカでの生活そしてインターンシップ開始から1年が経ちました。"光陰矢のごとし"といいますが、まさにその通りで、ボストンに初めて降り立った日がついこの間のことのように感じられます。

上司にも先日、"エリコ〜あと残り数ヶ月だって?!ついこの間来たばかりじゃない!もうちょっとここにいなさいよ〜"と言われ、そんな言葉にうれしい気持ちになりつつも、数ヶ月後の別れを思い少し寂しくなりました。ボストンに来て間もない頃は何もかもが初めてのことばかりで、とにかく周りの環境に慣れることに必死でした。新しい人や物事への出会いに胸を弾ませる一方で不安や緊張に押しつぶされそうになったり、英語につまづいては落ち込んだり、と浮いたり沈んだりの毎日を送っていたように思います。

1年が過ぎた今、英語や仕事面で自分への課題はまだ色々とありますが、こうして、あの頃はああだったなぁと振り返られるのは、きっと自分が少しは成長したからなのかなと思います。そして自分は今、とても貴重な経験をしているのだと改めて実感しています。

アメリカで生活をしてみて、日本とアメリカのそれぞれの良いところを知ることが出来たことは、私の今後の人生において大きなプラスになることと思います。私はアメリカでたくさんの人のやさしさ、心のあたたかさに触れました。これは私がアメリカに来て本当によかったなと思う最も大きな理由の一つです。例えば電車の中で、お年寄りや小さな子連れのお母さん、たくさんの荷物を持っている人などを見かけたら、若者でも誰でもすぐに立ち上がり席をゆずります。電車の中に限らず、街中でも困っている人がいたら、周りの人がすぐに手を差し伸べます。考えてみれば当たり前のことですが、日本だと恥ずかしさが先にたってなかなか出来ない人が多いように思います。

アメリカは自己主張の国、ストレートにものを言うと言われ、時にそれが強い印象を与えますが、この国の人はやさしさもストレートに表せるのです。また、この国のフレンドリーな雰囲気も私は大好きです。フロントデスクでチェックイン時などに隣り合わせた見ず知らずの人同士が何かのきっかけで話し始め、その会話が弾んでいる光景をよく目にします。時にはスタッフも会話に入って一緒に盛り上がってしまうなんていうことも。この国にいると自然とみんなが笑顔になるような気がします。これからもこの国の素晴らしいところをたくさん吸収していきたいと思います。

ひと月前の話になりますが、去る4月21日にボストンで最も大きなスポーツイベント、ボストンマラソンが開催されました。アメリカで最も古いスポーツイベントの一つで、今年で112回を迎えた歴史ある大会です。大会の数日前からボストン市内はマラソンムードー色で、ホテルゲストもほとんどがこのマラソンのために遠方からやってきたランナーやその応援者でした。昨年、あまりの人の多さに思うように観戦が出来なかった教訓を活かし、今年は早くからゴール近くに場所を確保し、絶好のポジションで思う存分レースを楽しむことができました。プロ選手の他に一般の参加者も数多くいて、彼らの頑張る姿にとても心を打たれました。応援しながら逆に自分が励まされた思いがしました。また沿道をうめつくす大勢の観客が選手一人一人にあつい声援を送っている姿にも感動し、レース後はあたたかい気持ちで胸がいっぱいでした。

インターンシップ終了まであと4ヶ月。これからもっと月日が早く流れていくのだろうと思うと少し焦りを感じてしまいますが、とにかく悔いのないよう、精 一杯頑張るとともに思う存分アメリカ生活を満喫したいと思います。

## インターン先 サイパン Aqua Resort Club

■出発前に不安でも、開き直る気持ちに助けられました。

日本から、また実家からも長期で離れたことがない私が、不安を抱えつつも「サイパンに行こう」と決意しました。もちろん不安は大きく、英語が通じるかどうかが最大の関心事でした。英語には自信がなく、コミュニケーションが取れるかどうかが心配だったのです。もうひとつの心配事は、生活面です。全く生活のイメージができないため、何を準備すればよいのか迷いました。自分でもサイパンの情報を調べてみましたが、観光情報ばかりで、日本と異なる島国でどのような生活になるのか、想像できませんでした。

インターンシップの面談時に、現地ホテル"アクアリゾートクラブサイパン"の担当者から「日本のようにあちこちにコンビニがある訳でもなく、医療機関はあっても医療が進んでいる訳ではない」と聞きました。ホテルからのアドバイスは、インターン生に最初に大きな期待をさせないためではないかなと、今となって心遣いが分かります。 医療については、持病がないため何とかなると思いましたが、食べ物や生活の不便さについての不安は、渡航前にしばらく続きました。

しかし、ある時に「行けば何とかなる!」と思って開き直り、日本の食材を準備することで、出発前に気持ちが落ち着きました。ふりかけ、アルファ米などのドライフード(災害時用の食料品)、しょうゆ、インスタント味噌汁、などなど...。

サイパンに着くと、最初は日本との違いに少しカルチャーショックがありましたが、サイパンのお店で売られている食材を見ていると、不自由なことはな

く通常の生活がすぐに始まりました。「杞憂」ということでしょうか、「案ずるより産むが易し」でしょうか。

■様々な国からの来島者により、各国の事情を知るにも良い機会でした。

カリキュラム上は、通常ホテル内の業務をバランス良く研修することになります。私はサイパン渡航前に日本でホテルの仕事の経験があったため、ホテル側と個別に相談しF&B(飲食関係)の実習を行わず、フロント業務とハウスキーピングを集中して研修とさせていただきました。就業研修では、日本での経験を活かし、楽しめたと思います。

サイパンで感じたこととして、就業のスタイルに日本と大きな違いがあります。サイパンは契約社会だな、と感じました。それは、何に対しても書面やマニュアルがあり、業務に対して少しの曖昧さも残っておらず、すべて文章化されているからです。移民の国「アメリカ」の一旦を垣間見た感じです。その都度該当の書面にサインし、それらの内容を守ることが求められます。日本人の感覚とは違って、良いこと悪いことを何でも文書化してサインします。その文面に書かれた内容を守れない場合は、段階を経て処分されてしまうんですね。インターン生は、就業研修ですのであまり厳しく対応しなかったのですが、スタッフには通常の処分があるようです。

日本の感覚では、例えば「これを終わらせておけば後々楽になるから、今のうちに終わらせてしまおう…」と思う業務があっても、サイパンでは「もう時間だから…」と途中で終わらせないといけない、という考えになります。業務の効率を考えると、やや疑問ですよね。業務を文書化されサインすると、業務範囲が明確でやりやすいというメリットもありますが、「ついでにやってしまおう」という日本の効率的な考えが受け入れられない社会に思えます。このような仕事のスタイルは国民性の違いでしょうが、なかなか慣れない習慣でした。帰国する頃になって、ようやくその感覚に慣れてきましたが…。他のインターン生やローカルの従業員の方と一緒に仕事をすることは、楽しかったです。フィリピン、ロシア、韓国の方もいらっしゃって、それぞれの国のことがよく分かりました。フィリピンの方が職場では最も多く、自国の話をしてもらいました。ロシアは、同じ大国でもアメリカと考え方が異なるようでしたし、個人的に旅行に行ったことのある韓国には、ますます興味が涌きました。寮で韓国人とルームシェアをしていたため、より深く韓国について知ることができました。

様々な国の方と交流が持てるのは、移民の国、サイパンの魅力のひとつだと思います。

■英語への不安解消は、北マリアナ大学での英語研修。 ※現在は J-1 ビザの規定でインターン中の英語研修は不可です。

英語の不安があり、インターンシップ期間中の大学内の英語研修は、勉強する良い機会となり助かりました。北マリアナ大学では、各ホテルからのインターン生が集まったクラスに、英語レッスンを提供しています。英語のレベルは、初心者用と感じましたので、自分には少し物足りない気がしました。自分が受講したクラスは、講師が学生の要望を受けたのか、途中から内容を変えて接客に使える英語を指導し始めました。

授業全般を通じてひとつの表現だけを教えるだけではなく、バリエーションを伝えた授業としたため、語彙力や表現力を身に付けることができました。 受講した英語コースの日程が7月頃でしたので、大学が夏休み期間中であまり多くの学生とキャンパスで会えませんでした。しかし、空いた時間を使って、英語クラスのある校舎だけではなく、キャンパス内のショップに立ち寄り大学ロゴのあるグッズなどをお土産として買いました。一部は、自分のために今も自宅で使っていますよ。

■サイパン島での生活は、何とかなるものですね。

島では、生活様式や考え方が異なります。また、日本出発前に「交通の便が悪い」と聞いていました。実際に、お店の品揃え(種類)、お店自体の数、その他すべてにおいて便利な日本と比較すると見劣りします。しかし、モノがなくても基本的な生活はできます。サイパンは日本のように"アクセク"したり気負ったりせず、逆にゆったり時間が流れています。そのような生活を日本で経験することは少ないと思います。精神的にもリラックスできるサイパンの生活スタイルは、今でも気に入っています。

夜遊びについては、サイパンではその種類も場所もお店の数も限られています。その点で退屈に感じる方もいらっしゃると思います。しかし、マリンスポーツなど、日本では日常体験できない遊びが多く、楽しむ視点を変えてみるととても良い経験ができるんですね。

ホテル・インターンシップでは、寮や職場の仲間と一緒に出かけたり、食事に行ったりと、仲良く暮らすことができました。一般に「海外では日本人同士がよく固まって行動する」などと言われますが、サイパンではそのような雰囲気はありませんでした。

日本にいらっしゃって海外に興味がある方でしたら、ホテル・インターンシップを通じて日本とは異なるサイパンの良さを経験し、世界を広げる良いチャンスを得られると思います。

■帰国後、現在は進路を選定中です。

日本およびサイパンで経験したホテルでの接客業を、今後も続けていきたいと思います。次にどのホテルで仕事をしようかと検討しているところ、サイパンのホテルからもお誘いを受けました。様々なホテルで条件や契約内容を比較検討して、次のステップアップに繋げたいと考えているところです。

■最後に。

今回、ホテル・インターンシップに参加したことは、自分にとって明らかにプラスになりました。特に良い経験をさせてもらったこと、良い人間関係に恵まれたことは幸運かもしれませんが、それらはサイパン特有の良さかもしれません。機会があれば、またサイパンに戻りたいと思います。

出発前、ホテル・インターンシップでサイパンに行くことを母に伝えると、「何を言ってもきかないから…。行ってきなさい。」との言葉。このように口では厳しく心では優しく送り出してくれたのは、一番大切な母でした。その母に1年間日本から見守ってもらい、感謝の気持ちで一杯です。母には、日本から頻繁に荷物を送ってもらいました。インターン生の中で、荷物を受け取る回数が一番多かったのではないかと思います。また、インターンシップで日本を離れることについては、「自分よりも母の方が心配だったのでは」と今になって分かります。

渡航手配に関しては、急な渡航であったにも関わらず丁寧にご指導くださった国際交流サポートセンターの野間口様の細かなフォローに、この場をお借りして御礼申し上げます。サイパンでは、ホテル・アクアリゾートクラブの方々や仕事の仲間に、大変お世話になりました。またサイパン島を訪れ、皆様にお会いしたいと思っています。 Y.Y. 女性

